

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入社時と、職員研修時に法人理念及び利用者様お一人お一人に寄り添う姿勢を職員間で常に共有できるようにしている。	日頃から職員の目に入るように、ホーム内の壁や事務所に法人理念を掲示し、「一日一日を大切に、穏やかで豊かな生活」を送って頂けるように取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍により事業所と関わりのない方の接触は避けていた。感染状況を踏まえつつ、家族の面会から再開しているが、地域交流等ははまだ行っていない。	コロナで地域との繋がりが途絶えない様、地元自治会との交流をはじめ、事業所の認知度を高められるように働きかけ、災害時の協力体制も整えられるような関係性作りを計画されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で自治会長を通して、地域の皆様へ向けた介護に関する座談会や講習会を企画していたが、コロナ禍により中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議もコロナ禍により中止することが多く、半年に一度ほど公民館への集合形式で実施している。ニーズの変化とともに、貴重なご意見をいただき反映できる体制にしている。	コロナ禍の為、2ヶ月ごとの開催は行えていませんが、年に1度地元の公民館を利用して会議を開き、事業所の現状を伝えながら最新の情報を得るなど、対面での交流に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	制度の解釈についての問い合わせ等を担当者で連絡を取り合ったり、事業所で困っていることに対して相談を行っている。	事業所運営に関する制度や最新の情報を確認するなど、市の担当職員と交流を深め、相談しやすい関係を日頃から築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けての指針の整備から研修会等の開催を行っている。しかし、やむを得ない場合もあり、全廃には難しいこともある。	身体拘束を行わないケアに努め、外に出たいとの要望にも日々対応し、遠くから見守ったケアに努め、本人に寄り添ったサービスに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に対しての研修会を行い、何気なくしてしまうことも虐待になり得ることを防ぐための方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実践者研修を受講し、修了した職員から他の職員へ知識を広げるよう取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の前に必ず施設見学をしてもらい、その中で不安や疑問を解消してもらってから契約を結ぶようにしている。契約の際にも必ず疑問が残らないよう問いかけを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者と家族が随時連絡を取れる体制にしてあり、問い合わせ等に即座に対応できるようにしている。今のニーズに対応できるように検討は繰り返している。	管理者自ら携帯電話で連絡を取り合い、ご家族からの問い合わせにその都度対応し、信頼関係を築かれています。必要に応じて、ご家族の意見を職員会議に提示、共有した上で、検討して、より良いケアに繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員ニーズに対し、個別に対応できる環境整備を進めているが、全てにおいて対応できるわけではないので、そこに関しては応相談となる。	アットホームな雰囲気と風通しの良い関係性を図り、職員関係は良好に保たれています。運営に関する疑問や意見等を管理者に率直に伝え、利用者さん本位に立った、より良いケアに、職員が一丸となって取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	11項目の内容とも被るが、労働者ニーズになるべく沿うような形で対応している。プライベートを大切にできるよう配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	受講可能な研修等への積極的な参加を呼びかけ、向上心を大切にしている。また、積極的に学ぼうとする姿勢を大きく評価している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	介護福祉士会や地域包括支援センター等の活動に参加させてもらい、活動を通じてサービスの向上につながるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居契約時に時間をかけて情報の聞き取りを行っている。また、入居後もセンター方式を活用し、ご本人の話を傾聴しながら関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学时及び契約時に聞き取りを行っている。また、入居後もご家族のアフターケアに努め、どんなことでも話していただける関係の構築を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	どんな支援を必要としているのか、状況を探りながら対応を行っている。他事業者や他業種とも連携をとりながら多様なサービス展開を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	なんでも言い合える関係、お互いに助け合える関係の構築を目標に掲げ、職員と利用者との上下関係を作らないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が支援できることは積極的に関与してもらっている。支援計画作成時にも家族からの意見交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ対策のため、外部との接触がなかなか実現できていない。	馴染みの場所への外出は、コロナ禍の為、制限されていましたが、今年再開される地区の文化祭に参加予定があり、外部との交流も徐々に再開しています。近隣の公園に蓮の花や藤の花を見に出かける計画もされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が互いに助け合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が互いに協力し合える環境やサポートできる体制を整えている。家事や掃除、洗濯等を利用者同士で行っていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も家族から連絡があることが多々あり、適宜アドバイスや情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式と、ひもときシートアシストを活用し、本人らしい生活の支援を行っている。	「帰りたい」との願望が強い方への探究を重ね、「自宅に帰る」事ではなく「周りの人の為に自分が出来ることをやりたい」との願望だった事を突き止め、今ではホーム内のお手伝いをして頂く事で満足した生活を送っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	可能な範囲で聞き取りを行い、センター方式に落とし込むようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	センター方式を活用し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の職場会議や個別カンファレンスを開催し、方針を検討している。カンファレンスにはご家族が出席することもある。	カンファレンスにご家族にも参加して頂くなど、よりご本人に寄り添った計画作成に取り組み、日々のケアで実践しています。会議で振り返りを行い、一人ひとりが満足した生活を送る為の介護計画作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	センター方式の24時間生活記録に記載している。午前、午後の送りの際には記録の参照を必ず行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な対応は常に心がけている。サービスに対する線引きを行わないように職員に呼びかけ、できる限りその時に必要な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルスの感染対策のため、地域資源の活用ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	希望された利用者は往診専門の医師との契約を結んでいるため、24時間緊急対応が可能となっている。それ以外の医療機関とも情報共有を行っている。	市内にある在宅診療「きらり」と提携し、定期的に携わって頂き、適切な医療サービスを受けられています。希望する病院への通院希望も受けて、対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	情報共有ノートを活用し、介護職も看護職も必ず目を通すようにしている。また、診療所とも適宜情報共有を行い、最適な医療提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所の近辺にある病院の地域医療連携室へ定期的に訪問を行い、連携強化を行っている。また、入院時には必要な情報のやり取りを行い、退院以降の支援に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設での看取りに対しての意思の有無は入所時に確認をとっている。ニーズの変化が大きいため、事業所として出来ることを拡大できるよう職員と検討を行っている。	入居時に介護度が上がった場合は、今の職員体制ではお預かり出来ない事を説明しています。その際に、その後の事業所を予約されるご家族もあります。現在終末期ケアの方もおり、住み慣れた所での看取りを希望される事も想定し、「看取り指針」の作成に取り組む予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応手順について、意見の擦り合わせを行い、誰でも最善の対応が行えるよう指導している。また、救命救急講習受講を義務化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時BCP計画を策定し、それに対しての訓練を定期的に開催している。また、自治会や市とも緊急時の対応についての協議を続けている。	隣接するデイサービスセンターと共同して、災害時の訓練を行っています。地元消防団や自治会、民生委員を中心に、周辺住民の協力を得られるように働きかけ、今後は自家発電機の設置を目指しています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は接遇の講習会を実施し、配慮や尊重について学んでいる。認知症だからと決めつけず、対等な人間として対応するように指導を行っている。	入居者一人ひとりの思いや要望に応えられるように、職員間の情報交換を密に行い、ストレスのない暮らしの提供に努めています。食後、玄関から「外に出たい」との思いに応え、距離感を保った見守りを実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	叶えられる希望は傾聴しているが、対応が困難なこともあるため、その際は丁寧な説明を心がけている。また、なんでそう訴えるのかを紐解くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務を優先しないことを常々職員へ伝えていいる。その人にあった暮らし方を提供できるように支援方法を検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族から、どのような衣類が好みなのかを聞いたり、スキンケア用品を購入するなど希望に沿った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる範囲で職員と共に行っていただいている。食べたいものを聞き、お楽しみ献立のようにすることもある。また、食器の片付けやテーブル拭き等は利用者に行っていただく。	毎食手作りメニューを提供し、近くのスーパーまでの買い出しや調理、片付けまで職員と一緒にいるなど、楽しい食事時間になるように配慮し、その日の気分を見極めた支援を繰り返しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士を配置していないため、毎月の体重の増減で食事量等の管理を行っている。水分は適宜提供し補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアを行うが、拒否があった場合は時間を空けて声かけを行うようにしている。また、できる範囲でやっていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	昼夜共にオムツ使用者はいない。状況によりオムツを使用することもあるが、適宜使用しないよう訓練を行っている。	おむつ使用は極力さげ、排泄能力を落とさない様に、尿取りパットやリハビリパンツを使用することで、個々の残存機能を大切に考えた支援をしています。ゆとりある関わりで、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維を多く含んだ食品の提供、定時以外での水分摂取の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	職員の配置により困難なことが多いが、動ける利用者には併設施設の広いお風呂の提供や、レクリエーションとして温泉へ出かけたりしている。	入浴時間は、職員と二人きりの楽しくて有意義な時間となっています。気分が進まない日が続いた場合は、隣接するデイサービスの広いお風呂を借りて、温泉気分に入って頂けるように工夫し、スムーズな入浴支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりに合わせた生活のペースを支援している。眠い時は居室のベッドへ誘導する等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	提携先の薬局に処方薬の管理を依頼している。適宜情報交換をしており、一人ひとりの状態に合わせて薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	好きなことに取り組んでいただけるような支援を行っている。できることはご自身で行っていただくことで、機能低下予防にも取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの感染状況に応じてドライブに出かけたり、家族との接触も可能にしている。家族と出かけ、外食をされる方もいる。	コロナ禍で外出制限はありましたが、市内の温泉旅館に、温泉レクリエーションとして貸切開放して頂き、ドライブと温泉を一度に楽しむ機会を設けて外出支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は事務所でやっている。コンビニ等へ買い物に出かけ、お財布を渡し、支払いをしてもらうこともあるが、できる方は2名程。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば対応している。あまり希望がないため、最近を実施していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	余計なものは配置せず、動きやすく落ち着きやすい環境の提供に努めている。また、季節行事を行うことで時期の把握にも努めている。	各居室から、リビングと食堂を兼ねた広々としたワンルームへ行き来しやすくなっており、共用のトイレや浴室、洗面台等もリビングから近く、安心して過ごしやすい造りとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う他利用者とコミュニケーションを取りやすくしたり、共にアクティビティを行える環境を提供できるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時や季節の変わり目で衣類を入れ替える際に家族と相談し、馴染みの家具や製品を持ち込んでもらうようにしている。	馴染みの家具を持ち込み、居心地の良い部屋作りに取り組んでいます。自宅で新聞の購読を好んでいた方に、入居後も継続できるように対応するなど、今までと同じ暮らしを整えるように努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	設備資源を工夫し、できることはご自身でやっていただくことを心がけている。利用者の動く範囲は全館バリアフリーとなっている。		